

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

## ◆ 外海ホタテ貝漁が終漁

令和3年のオホーツク海での外海ホタテ貝漁は、湧別・常呂・佐呂間の3漁協で9万1千8百トン（前年比96%）を水揚げしました。

漁獲量では前年を下回りましたが、金額では、世界的な経済活動の再開や主要国の供給減を背景に、大型組成も追い風となって単価が上昇したため、3漁協の漁獲高は前年を大きく上回る見込みです。

令和4年の外海ホタテ貝漁にも大きな期待が寄せられています。



漁協名	水揚量	前年比
湧別漁協	39,358 トン	107%
常呂漁協	42,683 トン	90%
佐呂間漁協	9,831 トン	87%
計	91,872 トン	96%

## ◆ 秋サケが大漁！！

湧別・常呂・佐呂間の3漁協を合わせた令和3年の秋サケの漁獲量は6,905トンで、漁獲高は53億6百万円となりました。

秋サケ漁は数年不漁が続いていましたが、昨年は3漁協とも漁獲量が増え、単価も上昇したことから、前年と比べ漁獲量では50%増、漁獲高では79%増となりました。

年度別漁獲	R3	R2	R元	H30	H29
漁獲量（トン）	6,905	4,624	4,254	5,876	4,622
漁獲高（百万円）	5,306	2,963	2,130	3,809	4,470



## ◆ 鮭を捌いて鮭フレークづくりに挑戦！

佐呂間漁協青年部と網走西部地区水産技術普及指導所協力のもと佐呂間小学校6年生の水産学習が行われ、鮭の解体と鮭フレークづくりに挑戦しました。

ほとんどの児童が魚を捌くのは初めてで四苦八苦していましたが、漁協青年部員の方に指導していただきながら協力しあって捌いていました。

捌いた鮭は、鮭フレークに調理され、各家庭に持ち帰り振舞われました。



## ◆ 「うまい！」 サロマ湖産の魚介類

サロマ湖に面した国道238号沿いに、道の駅サロマ湖「物産館みのり」があります。

その施設には、観光客やドライバーが自由に休憩できるスペースを備え、サロマ湖を訪れる人々の足がかりとして利用されています。

「物産館みのり」では佐呂間町内のホタテ、カボチャ、牛肉等に代表されるサロマのいろいろな名産・物産を展示・販売しています。

なかでもファストフードコーナーで人気なのが「カキカラ」。

カキの殻ではありません。牡蠣のむき身を唐揚げにしたものです。



外はカリっと中はふわふわで大変美味しいです。

そのほかにも季節によっては蒸し牡蠣や焼き牡蠣、ホタテの浜焼きが味わえます。

ぜひ、サロマ湖にお立ち寄りの際はサロマ湖産の魚介類を食べてみてください。

**操業の安全と豊漁を祈ります！**

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会

2022.1.20

編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当

〒093-0502 佐呂間町永代町3番地の1

佐呂間町経済課水産係

T e l 01587-2-1200 ・ F a x 01587-2-1131

M a i l [kankou@town.saroma.hokkaido.jp](mailto:kankou@town.saroma.hokkaido.jp)



ももちゃん